

第 17 回世界大会報告書

宮 本 由 理 子

- 主 催 Christian – Churches of Christ - Disciples of Christ
共 催 ACU(アビレークリスチャン大学)、European Evangelistic Society、
Emanuel School of Religion、First Christian Church Nashville、
Global Ministries、Disciples of Christ Historical Society etc.
- 日 時 2008 年 7 月 30 日～8 月 3 日 *これに先立って 7 月 28 日～30 日ま
で、Global Women Connecting Retreat (世界大会に参加する全ての女
性のための集会)が開かれる。
- 主題聖句 私が彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全
に一つになるためです (ヨハネによる福音書 17 : 23)
従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民
に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられ
ています。そのかなめ石はキリスト・イエスご自身であります。 エ
フェソの信徒への手紙 2 : 19 - 20
- 目 的 キリストの教会世界大会は主イエス・キリストにあって根本的に一つ
であることをより完全に示すためにある。すなわち、クリスチャン、キリ
ストの教会、キリストの弟子の、世界の家族(この家族のメンバーが含ま
れている合同教会を含む)が交わりと理解と共通の目的を強め、これらの
教会が奉仕と予言と和解の働きが出来るよう励まし、靈感を与え、新約聖
書の基礎の上に、世界中のクリスチャンと力を合わせ、教会の一致にむか
って、イエス・キリストの全ての教会に世界家族の関係をつくるためにあ
る。世界大会はけっして教会の自由を妨げたり、現在我々がおこなってい
る組織や会の運営の仕方を前提にするものではない。(キリストの教会世界
大会綱領前文 2004 年世界大会に於いて制定)より
世界女性連帯集会は世界大会に参加する全女性会員が集い、交わりと
礼拝を通して祈り、学び、世の終わりまで福音をわかちあえるようにする
ためにある。
- 歴 史 世界大会は 1930 年、この世界教会家族内の国際的な交わりと協力にふ
さわしい方法を用意するために設けられた。
現在、世界大会は世界中に広まった「ストーン・キャンベル」運動の共通
の目的を理解し、イエス・キリストの全体教会と神の国の素晴らしい役割
を成就するための交わりを築き続けている。20 世紀には 30 カ国から 180
カ国に広がった。また、その直前に開催される世界女性連帯集会は 1955
年カナダのトロントで結成された。

プログラム

女性集会：8月28日7:00pm~ ホテルの広間で開催

主題：「主の食卓への招待（出席者：約70名）登録、開会礼拝 活動：メイ・リードさんにより四条町教会から持参した、「日本国憲法 前文と9条」が読み上げられ、それと共に袋につめた紙人形、羽ばたく鳥が出席者に配られた。円卓の周りに7~8人ずつ腰掛け、「ホスピタリティー（親切なもてなし）」などについて意見を交わした。

8月29日 9:00am~ 主題：主にあって一つ 聖書：ヘブライ人への手紙11：メッセージ、黙想と祈りと賛美 午後：賛美 途中、メイ・リードさんが、ディサイプルス・ヒストリカル・ソサイティー「オスカー・ヘインズ展示ホール開所式」に連れて行ってくださった。」会長 グレン・トーマス・カーソンさんに会う。



7月30日：聖書研究 礼拝と賛美 活動 閉会礼拝と聖餐式



世界大会

7月30日午後 登録 開会礼拝 President's Reception (参加者：3,000人)

開会礼拝はバグパイプの演奏を先頭に世界家族の国旗が入場し、若いカントリーミュージック、ミュージシャンのリードで「聖なる 聖なる 聖なるかな」を賛美した。



情熱的な説教があり、9時pmから「会長主催のレセプション」に参加した。ジュースだけの自由なまじわりの楽しいひと時であった。

7月31日 ワーク・ショップ 聖書研究 夜の集會に出席

8月1日 聖書研究 展示ホール ワーク・ショップ 夜の集會に出席

8月2日 聖書研究 レイディース・ランチョン

感想

メイさんの招待を受け、若いソテロ牧師と共に一週間ホームステイをさせていただいたことはすばらしかった。展示ホールやヒストリカル・ソサイティーでは会長のグレンさんともお会いし、話すことが出来た。聖書研究・夜の集會では深いインスピレーションを受けた。特にアフリカやインドの紛争地域では、日本の私たちが既に忘れていた殉教者の存在をしらされ、今もクリスチャンは殉教者であり、迫害する者のためにイエスがおられること、また教会は共に社会の問題に取り組む時、力が与えられることを教えられた。ヨーロッパ連合の基礎には第二次大戦後の仏独を中心とするキリスト教の共同作業があった。イギリスでは改革派教会というプロテスタントの連合がある。オーストラリアとアフリカでは United Congregation となっている。この世界大会の共催団体である European Evangelistic Society はチュービンゲンにセンターをおき、アトランタと連携して、「明日のヨーロッパ：今日の兆戦」をモットーに、国際的にキリストの福音を証しようとしている研究機関である。

メイ・リードさんたちの話からも、21世紀の教会のありかたについて、いたるところで話し合いがもたれている様子が理解できた。クリスチャンチャーチ家族内の和解と一致をこころみながら、世界のクリスチャンとひとつになろうとする壮大なあゆみのなかに、私たちもまねかれているのだろうか。フライ先生ご夫妻のルーツをたどるたびは、まだ始まったばかりである。

おわり